

台風23号 集中豪雨でまたもや荒崎地区浸水被害

厚生委員会の視察を切り上げ大垣市に到着したのが20日の午後4時。雨の降り方はますます激しくなっており、あちこちが冠水状態でした。水門川も満杯で今にも溢れる状態。午後5時30分、大谷川洗堰から越流が始まり、荒崎地区住民に避難勧告がでました。そして5時間20分後の午後10時50分に、仮土壌積みの堤防から越流し、またもや荒崎地区は21棟の床上浸水、121棟の床下浸水の被害がでました。

今回、大垣地域の雨量は228mlに達し、荒崎地域以外でも各地で床上、床下浸水の被害をもたらしました。



荒崎・島町内 床上浸水の被害が集中した辺り

○平成19年度に洗堰の高上げを1m5cm高上げすることになっているが、工事が完成すると今まで遊水地化していた泥川の水も河川に排水すると聞いている。そうなる河川の増水は必至で再び洗堰から越流するのではないかと。

○**現地対策本部**：土壌積みで5時間30分水の流入を遅らせたので、その間に避難の準備ができたと思う。排水については、排水ポンプ車3台と国土交通省から8台の排水ポンプ車の応援が入った。ただ、土壌積み堤防内の水を排水させ外との水位の落差をつけないと住宅地の水は排水できないので、少し時間が掛かる。

被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます

床上浸水	47棟	荒崎21棟(島町20、長松1)、その他26棟(寺内町、南切石町、今町、禾森町、林町、八島町、割田、本今町、荒尾玉池、荒川町)
床下浸水	688棟	荒崎121棟、その他567棟(八島町、割田2丁目、本今町、静里町、林町8丁目、藤江7丁目ほか)
農作物被害		水稻30ha、大豆18ha、イチゴ30小松菜10a、かすみ草25,000ポット

徳山ダムができて、遊水地は必要

今回の水害で、私たちが住む大垣地域は水害の常襲地帯であることを改めて思い知らされました。徳山ダムができて、この地域の治水対策の問題解決にはならず、揖斐川に流れ込むまでの牧田川、杭瀬川、相川、泥川、大谷川などの流域で降った雨量を一時的にも貯めておく遊水地が必要です。しかし、今のように特定の地域だけに犠牲を強いる治水対策は今すぐに改めなければならず、これこそ政治を司る行政の責任ではないでしょうか。

現地の声

21日朝、荒崎地区にて住民の皆さんから聞き取りを行いました。

○洗堰からの越流する前から、荒崎地域のあちこちが冠水状態で、今までになく内水がひどい。

○住宅への浸水は、夜中の3時頃まで増水し、朝の5時頃から少し水が引き始めた。しかし今回は水の引き方が悪い。

○相川の堤防は漏水で水がぼこぼこ出てくる。2年前の水害の時も堤防が切れそうで心配だったが相川の堤防は未改修状態なので心配している。

ご意見・ご質問等はこちらへ TEL 81-1383

<http://www.sasada-toyoko.jp/>

e-mail: sanbal@sasada-toyoko.jp

